

国語科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能	○長音・促音・拗音、助詞の「は」「へ」「を」などを正しく使うことに課題があります。 ○本を読むことが好きな児童が多いです。	○本を読むことが好きな児童が多いです。 ○正確に音読できる児童が多いです。 ○長音・促音、助詞の文中での使い方が定着していない児童がいます。	○幅広く読書に親しんでいる児童が多くいます。 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句を更に増やす必要があります。	○「漢字を読む」「漢字を書く」の項目は、目標値をやや上回っており、前学年に配当されている漢字の読み書きが定着しています。 ○「言葉の学習」の項目は、目標値を上回っており、ローマ字で表記されたものを正しく読むことができます。	○「漢字を読む」の項目は目標値を上回っていますが、「漢字を書く」の項目は、目標値を下回っています。 ○「言葉の学習」の項目は目標値を下回っており、語彙を更に豊かにする必要があります。	○「漢字を読む」の項目は目標値とほぼ同じですが、「漢字を書く」の項目は目標値を上回っています。 ○「言葉の学習」は目標値を上回っており、思考に関わる語句の量は十分身に付いています。
思考力・判断力・表現力	○友達の話聞いて質問をしたり、感想を言ったりすることが出来ます。 ○習ったひらがなを使って、経験したことや思ったことなどを簡単な文にして綴ることが出来ます。	○自信のなさから、発言の際に声が小さくなる傾向があります。 ○一部の児童を除いて、書く視点を提示すると、進んで書くことができます。 ○自分で書いたものを見直す習慣を付ける必要があります。 ○物語の学習では、想像を広げながら読むことができます。	○目的意識、相手意識をもって話す習慣が身に付いてきました。 ○自分の考えをもつことや話すことに課題があります。 ○「はじめ・なか・おわり」を意識して書こうとしています。 ○「楽しかった」「うれしかった」など限られた言葉で気持ちを表す傾向があります。	○「読むこと」の項目は目標値をやや上回っており、登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉える力が身に付いています。 ○「書くこと」の項目は、目標値をやや下回っており、内容の中心を明確にして、自分の考えを書くことについて課題があります。	○物語の内容を読み取る」の項目は目標値を上回っており、登場人物の気持ちや行動を、描写を基に捉えることができます。 ○「文章を書く」の項目は目標値を下回っており、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことについて課題があります。	○「物語の内容を読み取る」の項目は目標値を上回っており、登場人物の心情や行動を、描写を基に捉えることができます。 ○「文章を書く」の項目は、目標値を下回っており、指定された長さで文章を書くことについて、課題があります。
学びに向かう力、人間性	○どんな学習にも興味をもち、進んで取り組もうとする児童が多いです。	○概ね意欲的に学習に取り組もうとしています。	○比較的意欲的に読んだり、自分の意見を話したりします。	○比較的意欲的に読んだり、自分の意見を話したりします。	○全体の場で発言することに対して抵抗のある児童がいますが、国語教材への関心は高いです。	○意欲的に学習に取り組んでいます。特に、読書への関心が高いです。

2 課題と改善策、検証方法

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
課題	○話すときに正しい声の大きさを話すが苦手だと感じている児童がいます。 ○長音・促音・拗音、助詞の「は」「へ」「を」などを正しく使うことに課題があります。	○自分の思いや考えを話すことについて、個人差があります。 ○自分が書いたものを見直す習慣が定着していないことから、漢字の書き間違いなどが多く見られます。	○話すことには個人差があり、自分の考えをもてない児童や言えない児童が見られます。 ○「楽しかった」「うれしかった」など限られた言葉で気持ちを表す傾向があります。	○段落構成を考えたり、習った漢字を活用したりして文章を書くことに課題があります。	○書かれている文章や口頭で述べたことなどを端的にまとめることに課題があります。	○自分の意見が伝わるように段落構成を考えて、説得力のある文章を書くことが課題です。
改善策	○掲示物「声のものさし」を活用し、様々な学習において、適切な声の大きさをいしきできるようにします。 ○MIMの学習に継続的に取り組み、言葉の力を伸ばすことができるようにします。 ○文を書く際に、正しく使えるように、くり返し指導していきます。	○二人組で話す、グループで話す、学級全員の前で話すなど形態を工夫し、段階を踏んで指導していきます。 ○ノートや作文を書かせた際は、書いたものをまず見直すようにさせ、文章の中で正しく使えるように指導していきます。	○書いた文章を推敲したり、みんなで読み合ったりするなど、考えを共有する機会を多くします。 ○気持ちや性格を表す語句の量を豊かにするため、読書に集中できる時間をできるだけ確保します。	○文章を書く機会を様々な学習で設定し、書き方を指導していきます。 ○書き終わったら、自分で見直しをしたり、教師が添削したりして、よりよい文章にしていきます。 ○家庭学習の日記において、添削をして返却したり、必要に応じて書き方を授業で指導したりします。	○メモの取り方(短文で簡条書きにしたり、画数の多いものは平仮名にしたりして、文字を省略するなど)を授業で取り扱い、指導します。 ○自他のメモを紹介し合い、良い書き方などを学び合わせます。	○文章を書く機会を様々な学習で設定し、事象を説明したり、意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動を取り入れていきます。 ○説明文や物語文で段落ごとの見出し文を書かせていくことで、文章の構成の仕方を身に付けさせます。
検証方法	○授業中や様々な学習の際に確認します。 ○正しく使えているか、ノートや作文を見ていきます。	○二人組の対話やグループでの話し合いの際、机間指導を行い、確認します。 ○ノートや作文の中で正しく使えているかどうか見ていきます。	○机間指導の際、確認します。 ○日記や作文、ノーとなど、文章を書いた時に確認します。	○日記や作文など、文章を書いた際に確認します。	○学期中の聞き取りワークテストで状況を把握します。	○行事や日々の生活についての作文など、文章を書いた際に、できているかどうかを確認します。

算数科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能	○たし算・ひき算の意味や計算の仕方をよく理解して、生活の中で使っている児童がいます。 ○たし算やひき算では具体物から半具体物のブロックに置き換えて数の構成を理解することができました。	○ほとんどの児童が数の相対的な大きさについて理解することができています。 ○長さやかさ、時間等の単位の関係理解が不十分な児童がいます。 ○ものさし、定規の使い方が身に付いた児童もいますが、正確にはかれなかったり、真っ直ぐに線を引けなかったりする児童がいます。	○量感がきちんと身につけている児童とそうでない児童がいます。 ○計算の順序理解が不十分な児童がいます。	○目標値を大幅に上回っています。 ○同分数のひき算の理解に不十分な児童がいます。	○目標値を上回っています。 ○3 けた÷2 けたのわり算が不十分な児童がいます。	○目標値を上回っています。 ○倍数に関する理解が不十分な児童がいます。
思考力, 判断力, 表現力	○身の回りにあるものの長さに着目して、直接比較や間接比較、任意単位による長さの比べ方を考えたり、任意単位により長さを数値で表したりすることができています。	○新しい課題に対して、既習の考えを用いて、図・式・答えを導くことができます。	○立式に使わない数字の入った文章題で、間違った立式をする児童がいます。 ○自分の考えを論理的に説明することができる児童とそうでない児童がいます。	○目標値を大幅に上回っています。	○目標値を上回っています。	○目標値を上回っています。 ○百分率の理解が苦手な児童がいます。
学びに向かう力, 人間性	○計算を楽しみながら意欲的に取り組んでいる児童が多くいます。 ○問題をよく読まずに取り組んだり、正しく理解できなかったりする児童がいます。	○計算や測定を楽しみながら、意欲的に取り組める児童が多く見られます。	○計算や測定を楽しみながら、意欲的に取り組める児童が多くみられます。	○目標値を大幅に上回っています。	○目標値を上回っています。	○目標値を上回っています。

2 課題と改善策、検証方法

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
課題	○問題をよく読まずに取り組んだり、正しく理解できなかったりする児童がいます。 ○たし算・ひき算をする時に指を使って、数の増減を確認して計算している児童がいます。	○たし算は定着していますが、ひき算は定着が不十分な児童がいます。 ○新しいか課題に対して、既習の考えを用いて解決することができる児童とそうでない児童がいます。	○「時間」「長さ」などの量感がきちんと身につけていない児童がいます。	○文章題で活用できる思考力・判断力・表現力において、児童の差が大きいです。	○小数の引き算やわり算の筆算に課題のある児童がいます。	○分数のかけ算とわり算の混合計算や答えの約分などに不十分児童がいます。
改善策	○問題の中で分かっていること、聞かれていることを確認します。 ○ブロックを使い、数の合成・分解の理解が深まるようにし、反復練習していきます。 ○計算カードを授業中や家庭学習で取り組むようにし、反復練習していきます。	○一人一人が十分に考えている時間を設定し、対話や話し合う場を設定します。 ○日常生活の中で、長さや傘、時間などの読み取りや単位の変換を繰り返し行います。 ○ICTを活用し、自分の考えを書き表す時の見本を具体的に示します。	○ノート指導や確認プリントを行い、個別指導を行っています。 ○タブレットドリルを使い苦手の問題などを繰り返し取り組むようにします。 ○算数以外の時間にも「時間」「長さ」を意識的に取り上げ、日常生活の中に取り入れることで理解を深めていきます。	○プリント等を使い、計算問題に繰り返し取り組む時間を確保します。 ○タブレットドリルを使い苦手の問題などを繰り返し取り組むようにします。 ○習熟度別指導を活用し、児童の実態に応じた授業を展開することで、数量や図形についての技能を伸ばしていきます。	○小数の割り算を定着させるために、復習問題をしていきます。 ○タブレットドリルを使い苦手の問題などを繰り返し取り組むようにします。 ○テストの復習や補習、家庭学習を活用し、理解できるようにしていきます。補習や放課後など、個別指導も行っています。	○児童に身近なものを教材として扱って関心をもたせ、日常的に振り返る機会を作るようにします。 ○タブレットドリルを使い苦手の問題などを繰り返し取り組むようにします。 ○テストの復習や補習、家庭学習を活用し、理解できるようにしていきます。補習や放課後など、個別指導も行っています。
検証方法	○定期的に分掌問題に取り組み、問題を正しく読み取れているかどうか確認していきます。 ○定期的にノートを回収して、児童の考え・学習を確認します。 ○タブレットによるステップ学習の活用、ワークテストで確認します。	○定期的に考え方を書いたノートを回収して、具体的な書き方を繰り返し指導します。 ○ドリルやプリント等で定期的に単位の読み書きの定着を確かめます。 ○タブレットによるステップ学習の活用、ワークテストで確認します。	○定期的にノートを回収し、計算間違いがない確認します。 ○給食準備にかかった時間、教室移動の時間などを取り上げたり、見た目で大体の長さがわかるように意識的に取り上げたりしていきます。	○東京ベーシックテストやタブレットドリル、ワークテストなどで確認します。 ○定期的にノートを回収し、数量や図形についての技能が伸びているか確かめます。	○東京ベーシックテストやタブレットドリル、ワークテストなどで確認します。 ○授業の中で、既習事項の確認をする場面を設け、繰り返し内容を確認していきます。	○東京ベーシックテストやタブレットドリル、ワークテストなどで確認します。 ○授業の中で、既習事項の確認をする場面を設け、繰り返し内容を確認していきます。

理科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能	○観察や実験の視点を示すことによって、細かいところまでじっくり観察して、特徴を調べたり正しく記録したりできる児童が多いです。 ○観察や実験を通して確かめたことを知識として定着させることに課題があります。	○目標値を下回っています。 ○植物の育ち方「ホウセンカの花を咲かせた後には実ができる」については正答率が大きく下回りましたが、「ホウセンカの成長の順序を理解しているか」ではよく理解しています。	○目標値を下回っています。 ○特に1年間の動物の様子「オオカマキリの1年間のようす」についての理解について正答率が大きく下回っています。	○目標値を下回っています。生命・地球領域「けんぴ鏡の使い方」においては正答率が下がります。 ○人のたんじょう「子どもは、受精してから約38週で産まれることを理解している」について、特によく理解しています。 ○台風の進路や接近してきた時の天気の変化については正答率が下がっています。
思考力, 判断力, 表現力	○観察や実験の結果から、似ていることや異なっていることを発見することができます。	○全体的に目標値を上回っていますが、磁石の性質では出題問題すべてで目標値を下回っています。	○目標値を下回っています。 ○電気のはたらき「豆電球が明るくつくように、回路をつくる」や、物のあたため方「最も早くあたためる金属の棒を指摘できる」については前年度より大きく上回りました。	○目標値を若干下回っています。 ○天気の変化で、気象衛星の雲の画像から、ある地点の天気を読み取ったり翌日の天気を予測したりすることがよくできています。 ○流れる水のはたらきで川原の石の写真から観察された川原の場所を推測することができていません。
学びに向かう力, 人間性	○観察や実験など体験的な学習に対して、意欲的に取り組んでいます。	○目標値を上回っています。 ○観察や実験など体験的な学習に対して、意欲的に取り組んでいます。	○目標値を下回っています。学びに向かう力が低いと、正答率も下がる傾向にあります。 ○実験や観察など体験的な学習に対して、意欲的に取り組んでいます。	○目標値を下回っています。学びに向かう力が低いと、正答率も下がる傾向にあります。

2 課題と改善策、検証方法

	3 年	4 年	5 年	6 年
課題	○観察・実験から自然現象の相違点や共通点をしっかりと捉え、知識・理解の定着を図る必要があります。	○学習したことを知識として定着させることに課題があります。	○実験や観察したことが知識として定着していないことがあります。	○全体的に知識の定着を図る必要があります。
改善策	○予想や仮説を立て、観察・実験できるようにします。 ○実験結果から考えたことや結果をまとめる時間を確保し、理解できるようにします。	○既習の学習を振り返ったり、学習したことを自分の言葉でまとめたりする時間を確保することで、理解が定着できるようにします。 ○単元の終わりには理解が定着しているかどうか、児童自身が確かめられるようにプリントを活用する等工夫します。	○単元や授業の導入にICTなどを活用し、主体的に学習に取り組めるよう工夫していきます。 ○実験結果から考えたことや結果をまとめる時間を確保します。十分に思考・表現することで、理解できるようにします。	○既習学習を振り返り、知識の定着を図ります。
検証方法	○観察・実験の結果から考察やまとめを書くことができるようになったか、ノートやプリントで見取っていきます。 ○プリントやワークテストをもとに知識が定着しているか確認します。	○ノートやプリント、ワークテストをもとに、知識が確実に定着しているか確認します。	○単元ごとに確認プリントを実施し、知識の定着を図ります。 ○実験結果から考察やまとめを書くことができるようになったか、ノートを回収・添削し、変化を見取っていきます。	○ノートを回収・添削し、細かく見取っていきます。 ○単元ごとに確認プリントを実施し、知識が定着しているか確認します。

社会科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能	○見学・観察等で調べたことを絵や図を使ってまとめることができます。 ○大田区の地図を見て、どの方向に何があるのか読み取ることができない児童がいます。 ○大田区の様子や特徴などの知識が定着できていない児童がいます。	○ほとんどの単元で目標値を上回っていますが、くらしとお店、安全なくらし、大田区のうつりかわりの単元において、目標値をやや下回っています。 ○地図記号や方位の知識をもとに、読み取る部分がやや下回っています。	○自然災害からくらしを守る単元では目標値をやや上回っていますが、ほとんどの単元で目標値を下回っています。 ○八方位の理解をもとに地図を読み取ることや、グラフの読み取りに課題があります。	○わたしたちの国土、わたしたちの生活と食料生産の単元において目標値を下回っています。特に日本の位置や、周囲の大陸名、海洋名、世界の主な国についての理解が不十分です。
思考力、判断力、表現力	○大田区の様子を捉え、場所による違いを考え、自分の考えを表現することが概ねできています。	○どの単元においてもおおむね目標値を上回っています。	○ほとんどの単元で、思考・判断・表現力が目標値を下回っています。特に、都道府県名と位置の理解をもとに判断することが不十分です。	○わたしたちの生活と食料生産の単元において、目標値を下回っています。 ○資料に着目して変化を捉え、表現することに課題があります。
学びに向かう力、人間性	○大田区の様子に興味をもち、意欲的に調べ、問題解決に取り組んでいます。	○社会的事象に興味をもち、様々なことを意欲的に調べ、問題解決に取り組んでいます。	○資料を比較して、それに対して疑問をもち意欲的に取り組んでいます。	○社会的事象について主体的に問題を解決しようとして取り組んでいます。

2 課題と改善策、検証方法

	3 年	4 年	5 年	6 年
課題	○大田区の様子や特徴をとらえ、地図に表す力を付ける必要があります。	○地図記号や方位の知識をもとに、読み取って考察する力をつける必要があります。	○社会的事象についての知識を身に付け、正しく理解する必要があります。 ○グラフや資料を読み取る技能を身に付け、考察する力を付ける必要があります。	○グラフや資料を読み取る技能を身に付け、考察する力を付ける必要があります。 ○国土の地形の特色についての理解が不十分です。
改善策	○授業の導入で大田区の地図を活用する場面を増やし、地図に触れる時間を増やします。	○授業で地図を活用する場面を増やし、地図に触れる時間を増やします。 ○地図や資料を読み取り、考える時間を確保します。	○知識を定着させるために、実物や映像を積極的に用いて授業を行います。 ○グラフや資料をどのように読み取るのかという観点を明確にし、指導します。身に付けた技能を活用して、自ら読み取れるようにしていきます。	○グラフや資料をどのように読み取るのかという観点を明確にし、指導します。身に付けた技能を活用して、自ら読み取れるようにしていきます。 ○視点を明確にして、考える時間やまとめる時間を確保していきます。 ○授業で地図を活用する場面を増やし、地図に触れる時間を増やします。
検証方法	○定期的に地図を見る機会を増やします。	○ノートを回収し、考えたことを分かりやすく書くことができているかを見取っていきます。	○単元のおわりにチェックプリントなどに取り組ませ、知識を身に付け、正しく理解しているか見取っていきます。 ○授業の中で、資料から読み取ったことをノートに書かせ、ノートを回収し、児童の様子を見取っていきます。	○授業の中で、資料から読み取ったことや考えたことをノートに書かせ、ノートを回収し、児童の様子を見取っていきます。

生活科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1 年	2 年
知識及び技能	○学校たんけんを2年生と一緒にして、学校での生活は様々な人と関わっていることがわかりました。 ○自分が住んでいる地域に、様々な遊び場があることを知りました。	○町には生活したり、働いている人々や様々な場所があることに気付くことができました。
思考力，判断力，表現力	○アオスジアゲハ、ジャコウアゲハなどの育て方を教わり、生命があることや成長していく様子や育てた感想をオリパラ報告会で発表しました。 ○大きさや数等、観察する視点をもとに、アサガオの成長の様子を学習カードにまとめることができました。	○アオスジアゲハから始まり、チョウ全般について図書資料を用いて調べました。個人で調べたことをもとにグループでクイズを作りました。オリパラ報告会で発表しました。
学びに向かう力，人間性	○お世話をしている蝶や自分の花に親しみと責任をもって、大切に育てようとしていました。	○自分で育てている野菜の成長を楽しみにしながら、継続的に世話をすることができました。

2 課題と改善策、検証方法

	1 年	2 年
課 題	○生き物・植物のお世話では、声かけをしないと進んでできない児童がいます。	○身の回りの生き物に関心をもち、積極的にかかわろうとする児童が多いが、生き物が苦手で、関わりを避けようとする児童がいます。
改 善 策	○2学期以降も、生き物・植物と関わる場面を設定し、命の大切さを実感できるようにします。 ○平和の森公園を使った活動を充実させることで、自然との関わりをもつ機会をつくります。 ○3学期には昔のおもちゃで遊ぶ授業を計画し、その中で児童一人ひとりの思いを実現していくようにしていきます。 ○同学年による活動だけでなく、異学年との交流を増やし、共に活動する楽しさが分かるような体験をさせて友だちのよさに気付けるようにしていきます。	○子ども達が十分に意欲をもって活動できるようゆったりと時間を取り、関心をさらに広げられるようにしていきます。 ○活動するときには、見る視点を定めるようにします。 ○自然の中での体験をさらに増やし、遊び方や楽しみ方の工夫について話し合い活動をさせたり、他者に五感を通して分かってもらえるように言葉や絵、体での表現を工夫させたりしていきます。 ○同学年による活動だけでなく、異学年との交流を増やし、共に活動する楽しさが分かるような体験をさせて友だちのよさに気付けるようにしていきます。 ○児童同士の交流を増やし、お互いにいいと思ったところを発表し合い認め合う活動をします。
検 証 方 法	○自分の思いや、それを実現させるための方法や工夫などを書いたカードをもとに、児童の学習の様子を見取ります。	○興味関心をもっているか児童の活動の様子を観察します。 ○見る視点を示して言葉や絵でかせた生活科カードなどを用いて、考えたことや気付きを確認します。

体育科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能	○走る・跳ぶ・投げる等、基礎的な動きを身に付けてきています。 ○運動経験が少ない児童がいます。	○かけっこでまっすぐ走ったり、いろいろな方向に走ったりすることができます。 ○基礎的な動きを身に付けてきています。	○運動の経験の不足を補う感覚作りが課題です。 ○動きや技のポイントを理解し、繰り返し練習することによって、身に付けられる技能に差がありました。 ○学習したことを生かして、継続的に生活の中で実践していくことが課題です。	○運動経験の差から動きに幅の違いが見られる。体づくり運動の中に体の動かし方を教師や友達からの助言・支援を重ねたりすることで、技が上達しています。 ○学習したことを生かして、継続的に生活の中で実践していくことが課題です。	○器械運動や陸上運動では特に個人差が大きいのが課題です。 ○ボール運動では状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの技能を身に付けてゲームに取り組むことができます。 ○心はどのように発達するのか、怪我が起こったときは、どうすればよいのかを、多くの児童が理解しています。	○器械運動や陸上運動では特に個人差が大きいのが課題です。 ○ボール運動では状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの技能を身に付けてゲームに取り組むことができます。 ○病気の起こり方や予防の方法について、多くの児童が理解しています。
思考力, 判断力, 表現力	○友達の動きを見て、良いところを見付けたり、真似したりしている姿が見られます。	○友達のよい動きを自分に取り入れたり、自分で工夫したりすることができます。	○授業の振り返りを生かし、一人一人がめあてをもって運動に取り組んでいます。	○授業の振り返りをいかにして、一人ひとりがめあてをもって運動に取り組んでいます。	○チームや個人で必要な練習を考えたり、自分のチームの特徴をつかみ、適切な作戦を立てたりすることができます。	○運動のコツやポイントを見付けたり、自分の課題に合った練習方法を選んだりして学習を進めることのできる児童が多いです。
学びに向かう力, 人間性	○運動が好きな児童が多く、体育の学習を楽しみにしています。 ○できないことにも果敢に挑戦する子が多いです。	○運動が好きな児童が多く、進んで学習に取り組んでいます。 ○きまりやルールを守って活動することができます。	○運動に対する意欲は高く、楽しんで運動しています。 ○用具や器具の準備・片付けにおいて、児童は進んで取り組んでいます。	○運動が好きな児童が多く、楽しんで運動しています。 ○グループの友達に励ましの声をかけたり、アドバイスをしたりして、協力して運動しています。	○意欲的に運動に取り組んでいる児童が多いです。 ○安全に気を付けながら跳び箱や高跳びの道具を準備し、協力して運動に取り組むことができます。	○意欲的に運動に取り組んでいる児童が多いです。 ○安全に気を付けて運動に取り組むことができます。

2 課題と改善策、検証方法

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
課題	○様々な学習を通して、運動経験を増やしていくことができるようにする。	○運動経験が不足している児童には、基礎となる動きを経験し、達成感を味わうことができるようにします。	○きまりを守って、楽しく運動することができています。 ○鉄棒運動を苦手になっている児童が多くいます。	○器械運動を苦手になっている児童が多くいます。	○ボール運動において個人的なボール操作の技術に差があり、技術ポイントをイメージすることができたり、理解して、問題解決を図ったりしていく必要があります。	○個人差が大きく、苦手とする児童が多い運動領域がある。
改善策	○走る・跳ぶ・投げる・転がる・のぼる・おる・バランスをとる等、様々な基礎的な動きを多く経験できるような学習を設定します。 ○スモールステップを踏み、できるようになる楽しさを多く味わうことができますようにします。	○夢中になって運動に取り組める場面を設定し、その中で様々な動きを経験できるようにします。 ○よい動きを共有する時間を効果的に取り入れ、やってみたい・真似したいという気持ちを高め、よい動きを広めていきます。	○今後も楽しんで体を動かすことができるように、指導していきます。 ○ぶらさがりの感覚を養う運動を取り入れたり、スモールステップで学んだりしていきます。	○スモールステップで学んだり、教師や友達からの助言・支援を重ねたりすることで、技の上達を図っていきます。 ○運動感覚を養う補助運動を授業の始めに取り入れ、主運動につなげていきます。	○ポイントを視覚的に理解しやすいように工夫したり、スモールステップの段階を踏んで指導したりしていきます。 ○児童と共に、コートの大さやルールを工夫し、実態に応じたゲームにすることで、楽しく運動できるようにします。 ○作戦の例を示したり、作戦を話し合う時間を確保したりすることで、一人一人が課題をもって、ゲームに取り組めるようにします。	○個々の能力に応じて、適切なめあてを設定できるように、基準となる目標や動き、運動のポイント、スモールステップの段階を示していきます。 ○技能を高められるように、主運動につながる様々な運動や基礎感覚作りを取り入れ、スモールステップで学べる運動の場を用意したりします。
検証方法	○体育の授業の際に、行動観察して確認します。 ○学習カードをもとに、児童の学びを振り返り、確認します。	○体育の授業の際に、行動観察して確認します。 ○学習カードをもとに、児童の学びを振り返り、確認します。	○体育の授業の際に、行動観察して確認します。	○学習カードのふりかえりをもとに、技が上達したか、上達した実感があるか確認します。	○授業前と授業後に学習カードを書く時間を確保し、めあてを意識したり、教師や友達のアドバイスを聞いたりしながら取り組めていたかを確認します。	○めあてや選んだ練習方法を書いた体育ノート、観察をもとに確認します。 ○単元の始めと終わりの技能の高まりを体育ノートや観察で確認します。

図画工作科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能	○様々な材料や用具を使い、表現活動を進めています。 ○のりやはさみを使う経験が少なく、上手に使うことができない児童がいます。	○自分の感覚や行為を通して色や形に気付いたり、身近な材料や用具を使い、表し方を工夫したりしています。	○表したいことにあわせて、形や色、材料や用具の特徴を活かして使ったり、表し方を工夫したりしています。	○表したいことに合わせて、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの経験を生かし、表し方を工夫しています。	○前学年までの材料や用具などの経験や技能を活かそうとしています。	○素材や場所などに進んで関わり合い、材料や用具の特徴を活かして使い、表現に適した方法などを組み合わせようとしています。
思考力, 判断力, 表現力	○自分らしさを作品に表現することができます。 ○作品を見合って、友達の良いところを見付けたり、伝えたりしています。	○自分の思いを表そうと、感じたことや想像したことをもとに、楽しく制作しています。 ○作品や材料を友達と見て、話し合ったり、発表し合ったりしています。	○感じたこと、想像したこと、見たことをもとに、自分の表したいことを見つけています。 ○自分たちの作品や、身近な美術作品や制作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取っています。	○自分の思いを大切にしたい表現の仕方や発想に、多様な展開が見られます。 ○自分たちの作品や、身近な美術作品や制作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取っています。	○形や色の構成の美しさや、用途などを考えながら、発想し、想像力を働かせています。 ○自他の作品、我が国の美術作品などを鑑賞して、感じ取ったり考えたりしています。	○材料や場所などの特徴を基に発想し、自分らしいアイディアをもとに取り組んでいます。 ○自他の作品、美術・工芸作品などを鑑賞し、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりしてよさや美しさを感じ取っています。
学びに向かう力, 人間性	○意欲をもって取り組み、造形活動を楽しんでいます。	○毎週の授業を楽しみにしています。造形活動が大好きで意欲的に取り組んでいます。	○とても意欲的に取り組んでいます。新しい体験に目が輝いています。	○造形活動の体験を深めることに意欲的に取り組んでいます。	○自分らしさを見つめ、造形表現スタイルを探究しています。	○造形活動を楽しみながら、意欲的に自分らしい造形表現スタイルを探究しています。

2 課題と改善策、検証方法

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
課題	○作品を作るうえで、のりやはさみを上手に使えない児童がいます。	○感じたことを話したり、友人の話を聞いたりして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどを基に、自分のイメージをもつことができていない児童が見られます。	○感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどがあることに気付く必要があります。	○表現活動や鑑賞を通して、色や形などをもとに、自分のイメージをもつことができていない児童が見られます。	○動きや奥行きなどの造形的な特徴などをとらえることができていない児童が見られます。	○表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を活かして使い、表現に適した方法などを組み合わせることができるようになる必要があります。
改善策	○のりやはさみ等、様々な材料や用具を使う学習を設定します。その中で、学習経験を増やしたり、正しい使い方を指導したりしていきます。	○課題に即した作品鑑賞を通して、友人の作品が何に見えるかなど、形の見取りを発表し合わせ、イメージを言語化するなどして、表現の喜びをさらに深めていきます。	○自分たちの作品や、身近な美術作品や制作の過程などの鑑賞を深め、形や色などを基にした自分のイメージをもてるようにします。	○感じたことを話したり、友達と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いがあることに気付くようにします。	○関連ある作品の鑑賞を通して、感じたことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、動きや奥行きなどの造形的な特徴に気付くようにします。	○材料などの特徴をさらに深くとらえ、主題の表し方を構想する力を育みます。 ○自分の感覚や表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉える力を育みます。
検証方法	○行動観察を行ったり、できた作品を見たりして検証します。	○二人組の対話やグループでの話し合いの際、机間指導を行い、個別に支援したり、鑑賞ノートを確認したりします。 ○行動観察と作品確認をします。	○制作過程やグループでの話し合いの際、机間指導を行い、個別に支援します。 ○行動観察と作品確認をします。	○制作過程やグループでの話し合いの際、机間指導を行い、色や形などをもとにした自分のイメージの気付きに個別支援します。 ○行動観察と作品確認をします。	○構成計画や用途などを考える段階や、グループでの話し合い時、机間指導を行い、個別に支援します。 ○行動観察と作品確認をします。	○製作過程やグループでの話し合いの際、机間指導を行い、個別に支援します。 ○行動観察と作品確認をします。

家庭科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	5 年	6 年
知識及び技能	○家庭生活が、身近な人々との関わりで成り立っていることや、互いに協力し助け合っていく必要があることに気づき始めています。 ○食材や目的に応じた調理の仕方、様々な縫い方など、基礎的な技能を習得する学習では、生活体験の違いにより個人差が多く見られます。	○家庭生活に必要な知識を習得し、家族の為に自分にできることを考え、実践する姿が見られます。 ○食材や目的に応じた調理の仕方、様々な縫い方など、基礎的な技能を習得する学習では、生活体験の違いにより個人差が見られます。
思考力，判断力，表現力	○家庭での仕事や手伝い、できる料理などの面で、生活に関わろうとする姿勢が見られます。	○住まいの快適な環境作り、季節にあった着衣、栄養のバランスを考えた食事など、習得した家庭生活についての知識や技能を活かして、生活を見直したり改善したりしています。
学びに向かう力，人間性	○自分や家族の生活に関心をもち、皆が快適に過ごせるように整理整頓をしたり、調理実習や裁縫などの実践的・体験的活動を積極的に行ったりしています。	○自分や家族の生活に関心をもつことができています。 ○調理実習や裁縫、洗濯などの実践的・体験的活動を積極的に行っています。

2 課題と改善策、検証方法

	5 年	6 年
課題	○裁縫の玉止め・本返し縫い・半返し縫いについて、個人差があります。 ○コロナ禍によって実技の習得不足があります。	○裁縫やミシンの使い方等の技能について、個人差が大きいです。 ○コロナ禍によって実技の習得不足があります。
改善策	○家庭と連携を取り、学習したことを活かせる場面をつくります。 ○教師が手本を見せたり、視覚的な教材を用意したりします。 ○夏休みに家庭で調理・手芸・清掃の実習を実施できるようにし、学習したことを確実に身に付けたり、できることを増やしたりします。家庭で経験したことをもとに、さらに授業の中で生かせるようにもしていきます。	○家庭と連携を取り、学習したことを活かせる場面をつくります。 ○ミシンを使った学習活動の場面を設け、技能の定着を図ります。 ○進みの早い児童や裁縫やミシンの使い方に慣れている児童と他の児童が学び合う場をつくります。
検証方法	○夏休みの家庭の仕事カードや授業の中での振り返りをもとに、検証を行います。	○完成した児童の作品や学習の振り返りをもとに、検証を行います。

外国語科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	5 年	6 年
知識及び技能	○A L Tの発音やデジタル教科書の音源を聞いて、単語の意味をよく理解できています。 ○アルファベットを書く問題は、大文字や小文字を正しく書くことに課題があります。	○単語を聞き、意味を理解する問題は目標値を上回っており、よく理解できています。 ○アルファベットを書く問題は目標値を下回っており、大文字や小文字を正しく書くことに課題があります。
思考力，判断力，表現力	○母音の前に付く「a」や「an」などを正しく使い分けることに課題があります。 ○外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしていますが、語順を意識したり、基本的な表現を用いて伝えたりすることに課題があります。	○物の場所を説明する場面で、適切な位置を表す前置詞を選ぶ問題は、目標値を上回っており、よく理解できています。 ○例文を参考にしながら第三者について説明する英作文を書く問題では、目標値を下回っており、「できること」や「性格」について簡単な語句や基本的表現を用いて書くことに課題があります。
学びに向かう力，人間性	○A L Tの先生の発音をよく聞き、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしています。 ○外国の小学校の映像や行事の映像を見ることで、外国の文化に触れ、意欲的に学習に取り組んでいます。	○おおむね意欲的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしています。 ○外国の小学校の映像や行事の映像を見ることで、外国の文化に触れ、意欲的に学習に取り組んでいます。

2 課題と改善策、検証方法

	5 年	6 年
課題	○英語での発話に自信がなく、英語で積極的にコミュニケーションをとることに課題があります。	○アルファベットを用いて単語を書いたり、基本的な表現を用いて英作文を書いたりすることに課題があります。
改善策	○二人組で話す、グループで話す、学級全員の前で話すなど形態を工夫し、段階を踏んで指導していきます。	○授業で新出の英単語や英語表現を扱う際に、発音だけでなくスペルも確認して英単語や英語表現に慣れ親しませることができるよう指導します。
検証方法	○二人組の対話やグループでの話し合いの際、机間指導を行い、個別に支援します。	○英単語や英文を書いた際に確認します。